

紀元前からの技法「フレスコ画」体験

しつこくに顔料を重ねる
絵画の古典技法「フレスコ
画」を体験するワークショ
ップが、熊本市中央区の県
立美術館本館で開かれてい
る。「ランス美術館展」（熊
日など主催、9月4日まで）
の関連イベント。

フレスコ（イタリア語で
「新鮮な」）は、紀元前か
ら伝わる。14～15世紀のイ
タリアを中心に広がり、教
会の壁に描かれた宗教画が
有名だ。同美術館展では、
熊本ゆかりの画家藤田嗣治
が晩年、ランスの礼拝堂に
描いたフレスコ画の素描を
展示。ワークショップでは、
男女10人が6日間で2点を
制作している。

崇城大芸術学部の有田巧
教授が指導。参加者は、し
つこいを施した木枠のパネ
ルに、下絵を描いた紙を載
せて、千枚通しで穴を開け
転写。しつこいが乾かない
うちに水で溶いた顔料で彩
色する。しつこいが約8～
10時間で乾燥すると、絵が
定着するという。

肖像や模写などモチーフ
はさまざま。北区の主婦福
田多恵子さん（70）は、3年
前に19歳で亡くなったネコ
の「リー」を描いた。「初
めは絵の具がのるか不安だ
が、乾き出すと徐々に落ち
着く。貴重な体験です」と
満喫していた。

（中原功一朗）